

射し、免疫持続を目的とした追加接種は1年以上の間隔をあけて1mLを1回皮下注射する。

3. 効能又は効果

猫免疫不全ウイルスの持続感染の予防

4. 特筆すべき使用上の注意

- ・本剤の注射前には健康状態について検査し、重大な異常を認めた場合は注射しないこと。また、交配後間もないもの、分娩間際又は分娩直後などの場合には注射適否の判断を慎重に行うこと。
- ・猫において不活化ワクチン接種により、注射後3ヵ月

～2年の間にまれに繊維肉腫等の肉腫が発生し、同一部位へ反復注射することにより、発生率が高まるとの報告があるので、ワクチン注射歴のある部位への注射はさけること。

- ・注射針は原則として1頭ごとに取り替え、注射部位は厳守すること。
- ・本剤注射後、注射部位に腫脹、硬結が持続的に認められる場合や副反応が認められた場合は、速やかに獣医師の診察を受けること。

(ウイルス製剤検査室長 衛藤真理子)

ジノテフラン及びピリプロキシフェンを含有する猫用の滴下剤

(平成19年8月1日承認)

ジノテフラン及びピリプロキシフェンを含有し、滴下して用いる猫用の外用剤が承認されたので、その概要を紹介する。

新有効成分であるジノテフランは、ネオニコチノイド系の薬剤であり、ノミに対して高い殺虫効果を有する。我が国においては、平成14年に農薬登録され、農業として害虫駆除に使用されている。

また、ピリプロキシフェンは、IGR（昆虫成長制御剤）の一種であり、昆虫の成長を支配する幼若ホルモンと同じ作用を有し、昆虫の体内ホルモンバランスを崩して成長を阻害するものである。平成2年に蚊・ハエ幼虫駆除用の顆粒剤が動物用医薬品として承認されて以来、これを用いた動物用の医薬品又は医薬部外品が多数承認され、使用されている。

本剤はこれらの成分を有効成分とする配合剤であり、ノミの駆除、並びにノミの卵の孵化阻害及び幼虫の脱皮阻害によるノミ成虫の寄生予防を同時に行うことができるものである。

1. 成分及び分量

1mL中 ジノテフラン100mg及びピリプロキシフェン40mgを含有する。

2. 用法及び用量

猫の頸背部の被毛をかき分け、1mL入りピペット1本全量を皮膚へ直接滴下する。

3. 効能又は効果

猫に寄生するノミの駆除。ノミの卵の孵化阻害及び幼虫の脱皮阻害によるノミ成虫の寄生予防。

4. 特筆すべき使用上の注意

- ・本剤は、30日齢以上の子猫に対してしか安全性が確認されていないため、30日齢未満の子猫へは投与しないこと。
- ・本剤は、妊娠中及び授乳中の母猫には投与しないこと。
- ・本剤投与後約1ヵ月間はシャンプーを控えること。
- ・本剤の投与により、まれに嘔吐、下痢が現れることがある。
- ・猫が投与直後に投与部位を舐めた場合、流涎、嘔吐並びに食欲不振を引き起こすことがあるので、本剤投与直後に投与部位を舐めないよう注意すること。
- ・ノミの発生状況により異なるが、本剤は1回投与するとノミの成虫を4週間駆除し、ノミの卵の孵化を4週間以上阻害する。

(薬剤作用検査室長 永井英貴)